

財団法人 中山科学振興財団
平成23年度事業報告書

(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

平成23年度は、事業計画に従い以下の会議を開催し、次の通りの事業を行った。

I. 会議

1. 理事会

- ①第63回理事会(平成23年 6月23日 午後6:30~8:50)
平成22年度事業報告、同収支決算の承認
- ②第64回理事会(平成23年 8月17日 午後6:00~8:50)
平成23年度中山賞大賞・同奨励賞、研究助成対象者及び国際交流助成対象者の決定
- ③第65回理事会(平成24年 2月 2日 午後6:30~8:40)
平成24年度事業計画、同収支予算の決定
理事長及び常務理事の選任
選考委員(常任・専門)の選任
顧問の選任
奨励賞公募の年齢制限の変更の件
公益財団法人移行に関する最初の評議員の選任方法の件
公益財団法人移行に関する最初の評議員選定委員会の設置・運営規則の制定の件
- ④第66回臨時理事会(平成24年 3月 26日 午後6:30~8:50)
公益財団法人移行に関する定款の変更の案の件
公益財団法人移行に関する最初の評議員候補推薦の件

2. 評議員会

- ①第40回評議員会(平成23年 6月23日 午後6:30~8:50)
平成22年度事業報告、同収支決算の承認
- ②第41回評議員会(平成24年 2月 2日 午後7:00~8:40)
平成24年度事業計画、同収支予算の承認
理事の改選
- ③第42回臨時評議員会(平成24年 3月 26日 午後7:00~9:00)
公益財団法人移行に関する定款の変更の案の件
公益財団法人移行に関する最初の評議員候補推薦の件

3. 選考委員会

- ①平成23年度選考委員会(平成23年 7月29日 午後0:00~2:30)
中山賞大賞受賞候補者の選考
中山賞奨励賞受賞候補者の選考
研究助成対象候補者の選考
国際交流助成対象候補者の選考

4. テーマ検討会議

- ①平成23年度テーマ検討会議(平成23年12月 8日 午後6:00~8:40)
平成24年度褒賞・助成のテーマについて検討 《在京の学術担当理事および選考委員(常任)》

II. 事業

1. 「睡眠の生物科学」をテーマとする以下各氏の研究に対し褒賞・助成を行った。
(所属・肩書は授賞・助成当時／敬称略)

中山賞大賞：1名 300万円

Michel Jouvet (ミッシェル・ジュヴェ)／フランス学士院終身会員 リヨン大学医学部名誉教授

覚醒、睡眠 および逆説睡眠(レム睡眠)の発生メカニズムの脳神経生理学的研究

中山賞奨励賞：応募者なし

研究助成：4名 各100万円 *五十音順

甲斐田 幸佐(かいだ こうすけ)

独立行政法人 産業技術総合研究所 ヒューマンライフテクノロジー研究部門 研究員(産業技術人材育成型任期付研究員)

「睡眠不足が情動記憶の偏向および脳活動に及ぼす効果検証」

栗山 健一(くりやま けんいち)

独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 成人精神保健研究部 精神機能研究室長

「抑圧された外傷出来事記憶が睡眠剥奪により受ける影響の精神生理学的検討」

田中 進(たなか すずむ)

財団法人 東京都医学総合研究所 精神行動医学研究分野 睡眠覚醒制御プロジェクト 主席研究員

「睡眠覚醒制御神経ペプチドであるオレキシンの特異的転写制御因子の探索とその機能解析」

平田 快洋(ひらた よしひろ)

北海道大学大学院 医学研究科 連携研究センター 光バイオイメージング部門 特任助教

「睡眠覚醒リズムに関わる中枢時計安定化機構の光イメージング解析」

国際交流助成(海外渡航)：4名 *五十音順

赤石 れい(あかいし れい)／東京大学大学院 医学系研究科 特別研究員 (50万円)

「TMS-EEGとDWIの併用による睡眠に関する皮質・視床回路の機能的・構造的な解明」

渡航先：英国・オックスフォード, University of Oxford

鹿角 契(かつの けい)／国立国際医療研究センター 医師 (50万円)

「Leadership and Management in Public Health : Role of Transnational Health Systems in Asia and Pacific Region」

渡航先：アメリカ・ホノルル, East West Center, in affiliation with University of Hawaii, Asia Pacific Leadership Program

松本 佳則(まつもと よしのり)／岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 非常勤研究員 (50万円)

「骨代謝制御因子“3BP2”の作用に着目した関節リウマチの発症機序及び治療法の解明」

渡航先：カナダ・トロント, Division of Stem Cell and Developmental Biology, Ontario Cancer Institute

山崎 聖司(やまざき せいじ)／大阪大学 産業科学研究所 感染制御学研究分野 大学院生 (32万円)

「環境シグナルによるサルモネラ薬剤耐性誘導とRam制御因子の解析」

渡航先：フランス・Nouzilly, Institut National de la Recherche Agronomique (INRA)

国際交流助成（海外研究者受け入れ）：応募者なし

2. 中山賞・研究助成等贈呈式

平成23年9月23日に、平成23年度研究助成対象者及び理事、選考委員で贈呈式および食事を開催した。

3. 出版事業

第19回の褒賞・研究助成・国際交流助成の成果を発表すべく、「活動報告書2010」を作成した。該当の研究者、当財団理事・評議員・選考委員、過去の大賞・奨励賞受賞者・研究助成者に送付。また、例年通り、全国の大学・研究所・病院の図書室に合計約320部を謹呈。

III. その他

文科省監査改善報告の件

改善途中事項は以下の通り（改善終了まで事業報告に記載するよう指示のあったもの）

問題点： 非常勤理事について、自動車賃の支給額が高額であり、実質弁償程度となっていない。また、選考委員に謝金が支給されているが、算定根拠となる規則がない。

回答： 理事長、副理事長、常務理事で検討し、新公益法人移行に向けて整備する。

問題点： 非常勤監事について、自動車賃の支給額が高額であり、実質弁償程度となっていない。

回答： 理事長、副理事長、常務理事で検討し、新公益法人移行に向けて整備する。

問題点： 評議員会の書面表決表について、日付のないものがある。

回答： 改善完了。

問題点： 事務処理関係規則及び職員関係規則が整備されていない。（前回指摘事項）

回答： 新公益法人移行に向けて整備する。

問題点： 公印管理に関する規則等が整備されていない。

回答： 新公益法人移行に向けて整備する。なお、公印使用簿は整備済みで、全ての使用に際して記入・署名を行っている。

問題点： 平成21年度決算の内部留保水準が147.5%である。（前回指摘事項）

回答： 内部留保額の縮減は検討してみるものの、当財団の内部留保率は毎年そのまま高水準を維持出来ている訳ではなく、昨今の利息収入の減少から、年々内部留保率は下がってきている。平成22年度決算では72%に減少しており（平成21年度147.5%）、平成23年度決算時には更に減少するものと思われる。このままの利率が続けば、間もなく内部留保そのものが見込めなくなる状況で、現時点で事業の拡大（助成額の増額等）は行えない。

以上